



魚つかみの好きな「はしかけ」さんの集まりである「うおの会」ができて5年目になります。最初に「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来にのこそう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標をたて、活動してきました。3年間で滋賀県中の魚類分布の状況をつかんでしまいました。次にはじめたのが、法竜川での定点調査、定点20ヶ所を決め月1回の調査をしてきました。その分析を、うおの会のメンバーが行っています。

魚つかみが好きな人の集



まりが、魚つかみのコツをつかみ、投網を打て、魚の同定ができるようになり、さらにデータの分析をはじめたのです。熱意によって研究者ではできない調査を行い、面白い結果をだしていただきました。この間、私自身がはしかけさんとともに変化してきたことかなよりの収穫でした。

うおの会を、「魚つかみを楽しむ」会から「魚つかみの楽しみを伝える」会に変えようと提案し、会則を変えたのが1年前、琵琶湖お魚ネットワークを立ち上げ、企業や行政、あらゆる個人を対象に、魚つかみの楽しみ方を伝授しようと、うおの会のメンバーは、どこへでも出かけ、出前観察会をやりま。10万ヶ所の目標をもって琵琶湖地域の魚のモニタリングをしようとしています。

私は天井川として有名な草津川をテーマにしました。氾濫しないようにより高い堤防を繰り返し造ることで周辺より川床が高い天井川はできました。旧草津川の下には三つのトンネルがあります。来館者との交流では、いつも通っているトンネルの上に川があるの？草津川の近くにあるトンネルは川の下？などと驚きの感想をよく聞きます。交流を通じて水害の事実が案外身近にあることをたくさんの方に気づいてもらい、私自身も考えさせられる機会となりました。（清水）



「水は命をつなぎ、命を奪う」これは小学生の頃、瀬田川で水死した児童を悼んだ校長先生の言葉です。古来琵琶湖のまわりの人びとは、水に生かされながらも、水との闘いを余儀なくされてきました。この痕跡の一つに「西野水道」（高月町）があります。江戸時代、大雨の度に水没する村を救うため、ノミとかなづちで堅い岩盤を砕いて水道を造った石工たち。展示してある岩盤の前に立つ時、熱いものを感じます。（近藤）

「水は命をつなぎ、命を奪う」これは小学生の頃、瀬田川で水死した児童を悼んだ校長先生の言葉です。

せて他の展示室の紹介もできますし、県外から来られた来館者に琵琶湖に関心を持っていただくきっかけづくりやフィールド案内もしています。



「ヨシ葺き屋根について」  
（北川交流員）

茅葺き屋根の民家をそのまま移築した「富江家」。人気のあるコーナーでの交流ですが、このテーマを選んだ理由は何か？

どんな話をしているのですか？

ヨシとアシ（オギ）の違いなど実物を使って説明しています。また、ヨシを守っていくには利用されることが大切ですから、ヨシ紙などの利用方法もお伝えしています。

来館者の方々の反応はどうですか？

先日、茅葺き屋根で有名な京都の美山町から来られた来館者がありました。この方からは教えていただくことも多く楽しく交流させていただけました。

ヨシについて勉強する機会があり、自分が感動したヨシの持つ魅力を伝えられたらという思いから選びました。



ヨシについての話を聞く

こんにちは！ 展示交流員です。



琵琶湖博物館における冬の風物詩とも言えるのが「展示交流員と話そう」です。来館者の方々と交流員はどんな会話を楽しんでいるのでしょうか？ そのいくつかを紹介します。

「琵琶湖の三つの島めぐり」  
（今泉交流員）

展示室「空から見た琵琶湖のコーナー」は、陶板に焼き付けられた琵琶湖を中心とした航空写真が床一面に広がっています。ここでどんな交流をしているのですか？

琵琶湖に浮かぶ3つの島



空から見た琵琶湖

（沖島・多景島・竹生島）での生活や文化についてのお話をさせていただきます。

このコーナーでの交流の特色を教えてください。

ここの展示の特色は、来館者の興味に合わせて交流ができる場所であることです。あ



レンズでのぞく